

第二の家庭としての 環境構成

大和東保育園



子どもの「やってみよう」を引き出す環境構成 ～子どもの発達に合わせた物的環境・人的環境の再構成～

子どもの発達や育ちに合わせた環境構成、玩具の配置、職員の見守りと援助の姿勢について日常の保育の中で振り返り、学びを深めていきたい。

乳幼児期においては保育所保育指針の第一章1の(1)イ保育の役割に関する項に「子どもの状況や発達過程を踏まえ、保育所における環境を通して、養護及び教育を一体的に行うこと」と示されているように0歳～5歳を対象に幼児の自発性、安全性、

生き生きと活動できる場、人と関わる力を育むことを目的とした人的環境・保育環境づくりを行っている。

今回は、今現在の保育環境は5領域「環境」の観点である「人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなる」に寄与しているかについて検討し、物的環境・人的環境の二つの側面から考察し、再構成していくプロセスをまとめていきたい。

園内研修を行い保育環境構成の再構成を行う

1. 保育環境構成の再構成

- 1) 対象: 0歳～5歳児クラス 2) 実施時期: 9月 3) 頻度: 年1回
4) 保育者: 玩具インストラクター資格保有者1名、保育士の4名

※環境構成の頻度について。普段から子どもの発達に合わせて玩具の入れ替えや、テーブルの移動等少しの環境変更は行っている。今回、玩具インストラクターの保育士と話し合いを行い、子どもの発達に合わせた玩具の購入を行った。それに伴い全クラスで環境も大幅に変えた為、頻度は1回とカウントしている。

※乳児では、玩具の特性を考えたどのコーナーをどこに置き、玩具の配置方法を検討、生活導線をより明確に子どもたちに分かりやすくするように構成を考えた。机や床のみではなく、棚の側面等も使用し空間を使うようにしている。走らないような棚、環境植物を配置して、自然と走らないような構成も考えた。

※幼児では、子どもたちの好きなコーナーの充実や、動線、玩具の特性を考えて構成している。玩具の特性では、例えば、積み木は揺れに弱く壊れやすい為、あまり動線上に配置しないように奥のコーナーに設置する等、玩具の様子に合わせてコーナー保育の配置を行った。また、壁に面して玩具の配置や、テーブルの配置の仕方を考え、遊びが集中して行える環境や、感染対策も考えている。



2. 人的環境の再構成研修

1) 対象: 園長1名、主任保育士1名、正規保育士15名、非正規保育士8名、看護師1名の合計26名

2) 実施時期: 10月

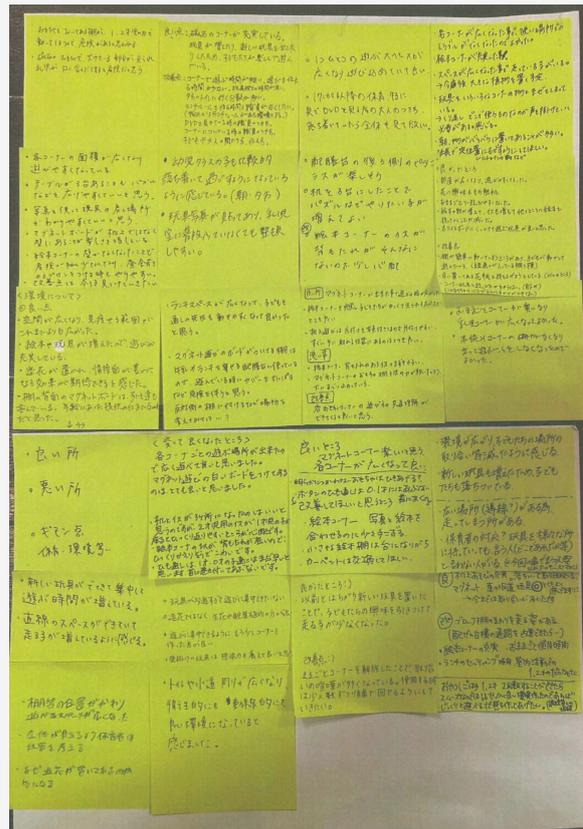
3) 子どもの姿、保育者の姿、環境の観点から気づいたことを付箋に記載し集約する。

観察項目: ①自発性②安全性③生き生きと活動できる場④人と関わる力

※評価を行う者は環境の構成に直接関わらない者も含んでいる。観察項目は日常の様子から観察・評価をさせている。

4) 回答方法: 4件法(とても良い4点、良い3点、ふつう2点、がんばろう1点)と自由記述を併用して回答させる。

5) 集計・分析方法: 4件法合計得点の平均値を求め、環境構成実施前後の観察項目の変化を比較する。



環境を変えたことによる職員のアンケート結果

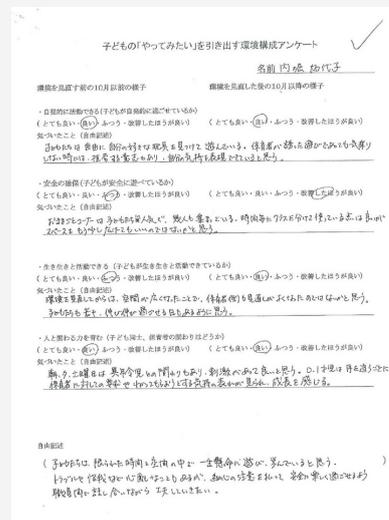
表1は、調査前(9月)と調査後(10月)の各調査項目の平均値を算出して示したものである。

	自発的に活動できる	安全の確保	生き生きと活動できる	人と関わる力を育む	全体平均
9月	1.9	1.5	2.0	1.8	1.8
10月	2.6	2.3	2.5	2.4	2.5

環境変更前の9月の全体平均1.8に対して、環境変更後の10月では2.5に上昇した。また評価項目ごとに見ても、全ての項目において向上が見られた。今回の取り組みは、保育所保育指針に示された保育の環境の留意点に沿った効果を得ることができたと言える。

1. 自発的に活動できる環境

環境変更前では、遊びを探せていない子どもに対して保育者が遊びを促がす姿が多く見られた。環境変更後は、子どもが玩具を手にとって自発的に遊ぶ姿が見られた。玩具が増え遊びに集中しやすくなったこと。コーナー毎に玩具の種類がわかれているので、子どもたち自身で今日は何して遊ぶかを考え易くなったと思われる。遊びを自由に選択しやすくなることが「自発的に活動できる環境」に繋がるのだと窺える。



2. 安全の確保ができる環境

環境変更前では、子どもの発達に合っていない玩具があったため、子どもが遊びに集中できず物の取り合いや、走る姿が見られた。環境変更後は、玩具を再検討したことから、子どもが遊びに集中し、落ち着いている姿が見られるようになった。発達に見合った玩具の提供から、子どもの遊びに対する欲求を満たすことが情緒の安定を促し「安全の確保ができる環境」に繋がるのだと窺える。

子どものやってみたいを引き出す環境構成	10月前	10月後	伸び率
自発的に活動できる (子どもが自発的に遊んでいるか)	1.9375	2.59375	0.84375
安全の確保 (子どもが安全に遊んでいるか)	1.53125	2.375	0.9375
生き生きと活動できる (子どもが生き生きと活動できているか)	2.03125	2.5	0.625
人と関わる力を育む (子ども同士、保育者の関わりはどうか)	1.78125	2.4375	0.619048
平均値合計	2.46875	2.90625	0.295298
全体的な伸び率			0.094541



3.生き生きと活動できる環境

環境変更前では、遊びに飽きている子がいた。集中するのが難しい様子が見られた。また生活動線が整っていないため戸惑う姿が見られた。環境変更後は遊びを応用、発展、工夫し、バリエーションを増やせるよう積木やLAQなどで作った遊びの見本となる写真を掲示し、生活面においても、着替えや食事に入る生活動線が写真やイラストを掲示することでよりわかりやすくなり子どもが戸惑わず過ごせている。子どもの子どもが遊びを発展させ応用し工夫しようと思える環境設定と、見通しの持てる生活動線を整えることにより、子どもが「生き生きと活動できる環境」に繋がったと窺える。

4.人と関わる力を育む環境

環境変更前では、乳児クラスで子どもに対して選べる玩具が少ないため取り合いになっている姿が見られた。遊びを見つけれず戦いごっこや走り回って遊ぶ子が見られた。環境変更後は子ども同士で「貸して」「遊ぼう」という言葉が増えたと思った。保育者に対しては「もう一回」「これ読んで」など繰り返し楽しむ姿が見られた。子ども一人ひとりが遊びに集中し、満足できるまで遊び込める環境の下では交代や譲り合いが成立しやすくなるのだと窺える。子どもが「人と関わる力を育む環境」に繋がったと窺える。

園名: 大和東保育園		クラス: 幼児(3, 4, 5歳児)	
コーナー名	写真	写真	コーナーを組む際や生活動線のポイント
絵本			<ul style="list-style-type: none"> コーナーを組む際や生活動線のポイント 落ち着いて絵本が読める場所に設置している。 図鑑、昔話、童話等種類に分けて本棚に入れている。 整理整頓が身につけられるようシールで色分けしている。
制作机1			<ul style="list-style-type: none"> 全テーブルを同じ方向にし、感染予防になるようにしている。日差しがある時は、ロールカーテンを閉めているが、まぶしくない時には、自然の風景を観察したり、絵に描いたりする空間を作った。 折り紙は色分けしておいてあり、子どもたちが自分で取れるような高さの置き方になっている。また、塗り絵も絵柄によって変えて置きた季節や行事によって種類を変えている。 のり、色鉛筆、クレヨン等置いてあり、自分でいっても好きな遊びが選択できるようにしている。 3歳児は、11月～色鉛筆を使い始めている。(鉛筆持ちが身に付きつつある為)その年の3歳児の様子や発達により色鉛筆の使用時期を変えている。基本的な考えは、運動会明け頃 机上では、トンク等の指先を使用した遊びが行える玩具を多めに置いてある。また、集中して遊べるように椅子に座って遊ぶようにしている。
ままごと			<ul style="list-style-type: none"> ままごと内で、スペースを分けて遊べるようにする為、広めにコーナーをとっている。 例えば、机のある所が家の中、ジュースのある場所が戸外として分けて、遠足ごっこや家ごっこなど、遊びの幅が広がるようにしている。 ままごとで使用の食材は、既存のものを使用するのではなく、布やポンポン、紐等を使用し、子どもたちが自由に想像して遊びを楽しめるようにしている。 入り口付近に観葉植物を置き、より家庭的な雰囲気作りをしている。
木製玩具			<ul style="list-style-type: none"> カプラ等を使用し、大きなものを作る時に導線になると壊れやすい為、奥にコーナーを設置している。 木製玩具でまとめてあり、様々な木の玩具を混ぜて遊べるようにしている。例えば、積み木と電車を組み合わせて遊べる等。また、積み木もギザギザの形や色がついている物等を置き、よりイメージが遊びの幅が広がるようにしている。
机上2			<ul style="list-style-type: none"> コマやカードゲーム、季節もののカードゲームを用意している。 カードゲームやボードゲーム等、大人数で遊べるように大きな机を用意している。プリズムコマやモザイク遊びで遊んだり、机を動かしてアイクリップ等で遊べるよう子どもの様子に合わせて環境を変えている。
ブロック			<ul style="list-style-type: none"> 透かし棚を使用し、両サイドから、玩具を取れるようにして遊べるようにしている。 トランプが多い遊びの為、部屋の真ん中に設置し、保育士等の目に留まりやすいようにしている。
ボードゲーム			<ul style="list-style-type: none"> ボードゲームを中心に置いてある。 ホワイトボードを用意し、人や動物のマグネットやピタゴラス等磁石系のもので見立てて遊べるようにしている。 壁に向かって遊べるようにしてある為、集中して行えるようにしている。

・年に何回、再構成を行いますか？ 年 2～3 回

・いつ頃を目安に再構成をしますか？
 例) 水遊び、プール活動が終わってから。子どもの歩行が安定したら。(0歳)
 ・その年の様子に合わせて構成の回数も違う。
 ・目安としては、夏頃と運動会後に行うことが多い。
 ・玩具の入れ替えは、子どもの発達や成長で入れ替えを行っている。
 ・今年も、感染症や散歩中の事故が他園であったこともあり、室内遊びが多かった。その為、定期的に玩具の購入をしたり、職員が遊びを広げられるように研修をしたりしている。

今後も保育指導計画の中で計画的に環境を構成し、工夫して保育できるようにしていく

「自発的に活動できる環境」「生き生きと活動できる環境」

環境改善前は、子どもたちの成長に伴い発達にあまり合っていない玩具や、コーナーや玩具の数が少なかつた為、自分で遊びを見付けることが難しい様子が見られていた。また、棚やテーブル等の配置の関係で走り回ってしまっていたり、生活動線がしっかりしていない為子どもたちが迷ってしまったりする姿が多く見られていた。改善後は、子どもたちの発達に合った玩具を取り入れたことや、玩具の数を増やしたこと、好きなコーナーを広げたことや、棚等の配置を変えたことで、自分で遊びを見付けて集中して遊ぶ姿や、生活の流れで迷う様子があまり見られなくなった為、自発的に活動できる環境、生き生きと活動できる環境に繋がった。

「安全の確保ができる環境」

集中して遊ぶ様子が増えたこと、棚の配置の移動や、環境植物を配置したことにより、走り回る様子が少なくなった為、安全の確保ができる環境に繋がった。

「人と関わる力を育む環境」

遊びの充実から、ごっこ遊びや、見立て遊び等をする子が増えた。その中で他児や保育士等との関わりが増えた為トラブルも増えたが、人との関わり方を知る為にはよいことと考え、保育士等が気持ちの代弁や他児への伝え方等を援助することで力をつけられるようになってきているように見られている。そのことから、人と関わる力を育む環境に繋がった。

以上のことから、玩具の入れ替え、各々のコーナー保育の充実等を行い、環境構成をすることで「人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなる」ことが保障され、環境を変えたことは有効だった。